

「ファジー」

「ファジー」という言葉を覚えているだろうか。30年前の流行語大賞で、当時はこの「曖昧な」を冠につけた家電製品が世の中に出回っていた。

汚れの程度に合わせて洗い方を変える洗濯機や、火加減を微妙に調整してご飯を炊く炊飯器などが、ファジー家電としてもはやされた。今ではこのような機能はもう当たり前のことになっているので、「ファジー家電」という言葉は姿を消してしまった。

「ファジー」とは曖昧という意味である。コンピューターの計算は1か0の二進法を採用しているが、1.1もあれば1.6もありうるという捉え方をすれば、家電にとっては便利な考え方があったようだが、世間では肯定的な意味合いはないようだ。

もうそれから30年もたつと言うのに、日本では政治の世界でファジーなイメージが蔓延している。説明責任と言いながら、問題を起こした政治家が国民に向けてその責任を果たした事例はなく、問題はあやふやなまま国民の記憶から消えていった。アベノマスクも批判の対象となった。260億円もかけて配布したアベノマスクの使用率はなんと3.5%である。この責任はどこにあったのか、政府も未だ明確な総括はしていない。時が解決してくれると言うが、それは悲しい出来事を忘れるときだけでいい。さらに第4波をむかえようとしているコロナ対策も曖昧さを隠せない。オリンピック開催も今もはっきりしていない。

このファジーの中で、国民の政治への関心は日増しに薄れつつある。18歳まで選挙権は引き下げられたが、今後の政局の行方の影響を最も受ける年代の無関心層が、積極的に投票に向かうとは考えられない。

投票率が下がる。選挙への棄権や白票は、実は政治への批判として行使したとしても、選挙結果は現状維持&肯定となる。なぜなら、批判層や無関心層が投票しないので、政党の組織票の割合が選挙結果となり、政党の議席獲得数に大きな変化はおきるはずがないからだ。

もっと関心を持ち、政治に関わりを持つ必要性を感じて欲しい。積極的に政治批判を展開していた志らくがMCを務める「グッドラック」は視聴率低迷とかで3月で終了した。4月からは「ラヴィット」がスタートした。このご時世にコロナも政治課題も取り上げない明るいだけが売りのモーニングショーが、長く続くはずがない。志らく復活、期待！

(丹羽 豊)